

企画書

タイトル案

プロ野球 12 球団ドラフト完全査定ファイル～21 世紀編～

プロ野球ドラフト通信簿～2000 年代～

サブタイトル

12 球団のドラフト戦略は“今”どう生かされているのか？

21 世紀のドラフト戦略がもたらした 12 球団勢力図の変遷とは

プロ野球 12 球団の過去 10 年ドラフト制化を徹底検証！

21 世紀ドラフト指名全選手の一軍成績を完全掲載！

体裁 B5 版オール 2 色 128～144P

発売日 2011 年 11～12 月

企画主旨

毎年行われる“プロ野球ドラフト会議”は、野球のオフシーズン最大の目玉行事です。各球団の戦力補強、今後の展望などの思惑が錯綜し、「即戦力」「将来性」「弱点補強」「育成重視」といったチーム事情に絡んで、例年 60～80 人前後のルーキーが、指名されます。その中には、期待通りの活躍を 1 年目から見せるルーキー、即戦力と謳われながら実力を発揮できずに球界を去る選手、下位指名ながら後にチームの主力にまで成長した選手など、様々な野球人生を歩むプロ野球選手がいます。

本書では、そういった選手の活躍ぶり、実力を出し切れなかった苦悩、驚くべき成長を見せた理由といった個々の目線を交え、各球団のドラフト戦略が 2011 年現在、どのように実を結んでいるのかを検証します。

特に今回は、過去のドラフトが各球団の“今”にどれだけ影響を与えているのかを探るため過去 10 年、21 世紀以降のドラフトにフィーチャーし、データ、エピソードを掘り下げていきます。“ドラフト全史”のような扱いにしまうと、どうしても各年度、各球団の情報量が希薄になる上、過去を遡った「回顧本」になりがちです。今回はあくまで現在の球団事情とドラフト戦略の因果関係を探る企画内容になりますので、ドラフトについては“過去 10 年間”と限定します。

内容案

2001~2012 年度 12 球団ドラフト全指名選手リスト&一軍成績

21 世紀以降のドラフト会議の指名リストに、各選手の年度別成績をプラス。これだけで、「データ本」としてはかなりのボリュームになり、いわゆる「選手名鑑」的な活用も可能になります。年度別成績を掲載する事で、各選手の成長がひと目でわかり、球団の育成方針やスカウティング力を図ることもできます。

12 球団年度別ドラフト通信簿

各球団の年度別ドラフト指名選手のリストから、2011 年現在、その年のドラフトが「成功」なのか、「失敗」なのかを査定します。指名した選手のその後の活躍ぶりから、年度ごとに、S~D までの 5 段階でドラフト戦略を評価します。

評価の基準

S：指名選手の中から、3 年以上活躍した球団の主力選手(レギュラー野手、先発ローテーション入り、クローザー、セットアッパー)が 2 人以上出ている。もしくは新人王獲得者、2011 年にブレイクした期待の若手選手が 2 人以上出ている。

A：指名選手の中から、球団の主力選手(レギュラー野手、先発ローテーション入り、クローザー、セットアッパー)が 1 人以上出ている。もしくは新人王獲得者、2011 年にブレイクした期待の若手選手が 1 人以上出ている。

B：指名選手の中から、一軍定着選手が 2~3 人以上出ている。

C：指名選手の中から、一軍定着選手が 2011 年現在出していない

D：指名選手全てが、一軍に定着できずに移籍 or 引退している

※10 年前と昨年のドラフトを同一基準で比べてしまうと、当然差が出てしまう(10 年前のドラフトの方が実績ある選手が多いのは当たり前なので)ので、今後の展望や 2011 年の活躍度なども参考にします。

21 世紀ドラフト～光と影～

期待通りの活躍を見せた大物ルーキー、大化けして主力までのし上がった選手を「光」。即戦力と騒がれながら、実力を発揮できずに引退、移籍、未だに芽が出ない選手を「影」とし、入団時は同じスタートラインだったにもかかわらず、その後の選手生活で明暗を分けた選手を紹介します。

「光」は、「ドラフトスター選手列伝」的な扱いで、「影」はオフシーズン恒例の「プロ野球戦力外通告」的なドキュメンタリータッチの記事になります。光、影でメインとして紹介するのは、下記インタビュー候補選手が中心。

選手インタビュー①

前評判通りの活躍を見せてチームの主力として活躍している選手、2011 年にブレイクした若手選手、新人王を獲得した選手などにインタビュー。プロ 1 年目から 2011 年までを振り返ってもらい、飛躍の理由や、今後にむけての目標などを訊きます。

インタビュー選手候補

- ・田中将大(楽天)
- ・斎藤佑樹(日本ハム)
- ・中田翔(日本ハム)
- ・唐川侑己(ロッテ)
- ・澤村拓一(巨人)
- ・丸佳浩(広島)
- ・浅村英斗(西武)

など

選手インタビュー②

期待されて入団しながら、2011 年現在まだ一軍で活躍できていない、もしくはすでに引退した選手にインタビュー。今後の展望や現在地震が置かれている立場などを性キララに語ってもらいます。

インタビュー選手候補

- ・辻内崇伸(巨人 05 年 1 位)

最速 156 キロ左腕として甲子園を沸かせたが、度重なる故障で一軍登板なし

- ・高井雄平(ヤクルト 02 年 1 位)

150 キロを超える速球で、高校 NO.1 投手と騒がれる。1 年目こそ 5 勝を挙げるも、制球難などでその後低迷。2010 年から野手転向。高校時代は同校後輩のダルビッシュも憧れた存在だった。

- ・喜多隆志(ロッテ 01 年 1 位)

六大学のスターとしてシーズン最高打率を記録するなど、鳴り物入りで入団。1年目にプロ初安打をサヨナラ安打で決め、続く試合もサヨナラ安打を放つなど、スター性を発揮したが3年目以降一軍出場から遠ざかり、06年に引退。現在は母校・智弁和歌山に教師として勤務。

・柳田将利(ロッテ 05年1位)

投打ともに超高校級で、二刀流も期待されたが、目立った成績を残せず。現在はNOMOベースボールクラブ所属。

・一場靖弘(楽天 04年1位)

六大学屈指の右腕として争奪戦が繰り広げられるも、裏金問題で一時はプロ入りも危ぶまれる。結果、新規参入球団の楽天が1位指名で獲得するも、思ったような成績は残せず。09年にヤクルトに移籍したが、10年はプロ入り初の一軍出場なしに終わった。

2011 最新ドラフト情報

2011年ドラフトの目玉は、大学BIG3と呼ばれる菅野、野村、藤岡。大学球界に逸材が多く、同級生は中田翔、唐川、由規の高校BIG3。ハンカチ世代に負けない層の厚さで、各球団が誰を1位指名するのか、サプライズ指名はあるのかに注目が集まっている。高校生にも歳内(聖光学院)をはじめ、高投手が揃っており、投手中心のドラフトになりそう。

- ・2011年ドラフト全球団指名リスト+選手経歴
- ・各球団ドラフト採点
- ・指名選手から見る球団の思惑、未来展望

類書

プロ野球 問題だらけの12球団 (草思社)